

令和8年度 第2回 曳馬小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年7月27日（月） 午後2時00分から午後4時00分
- 2 開催場所 曳馬小学校 多目的ホール
- 3 出席委員 飯尾忠弘,荒巻太枝子,川井啓介,中村佐知枝,戸田京子,鈴木香代,山田佳乃
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー なし
- 6 学 校 藤井隆志（校長）、古橋孝文（教頭）、鈴木謙誌（主幹教諭・CS担当職員）、内堀邦子（CSディレクター）、学校職員（担任等24名）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 内堀邦子（CSディレクター）
- 9 議長の選出 司会から議長の選出について委員に意見を求めたところ、飯尾会長を推挙する発言があり、全員意義なくこれを承認した。
- 10 協議事項
 - （1） 「学校経営評価」について（校長）
 - （2） 「教育課程」について（主幹）
 - （3） 「学校支援活動」について（主幹）
 - （4） 「職員の業務量管理・健康確保措置実施計画」について（教頭）

11 会議記録

司会から、委員総数7人のうち6人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）「令和8年度 学校経営評価」について（校長）

議長の指示により、校長から職員アンケートに基づく別紙資料「学校経営評価」について説明があった。

- 学校風土・学習指導：**概ね高い数値で推移。特に学習面は昨年度より改善が見られる。
- 課題点：**新年度組織変更に伴い、教職員間の連携（同僚性）に若干の低下が見られるが、時間の経過とともに改善が見込める。
- 人間関係：**児童の縦割り活動（仲良しグループ）を廃止した影響で、学年を超えた交流の意識が薄れている。今後の活動で意識的な改善を図る。
- 生活面：**挨拶の習慣化やICTリテラシーの向上、いじめ防止に向けた「心を育てる教育」の継続が必要である。
- 校務運営：**デジタル化（Tポート、コアら等）による教職員の業務フローの変化に戸惑いもあり、今後はペーパーレス等の業務のスリム化を効率的に活用できるようにスキル習得することが課題。校舎の小規模改修中のため、不便な中で教育活動を行っている。

委員から以下の発言があった。

- 教職員が子供の主体性を尊重し、惜しみなく愛情を注いでいる項目が100%は凄い。学級学年を超えたつながりはよりよい人間関係づくりにつながる。なぜ縦割り活動が廃止されたのか。最近1人で登校している子や親と登校している子が増えているように感じる。（飯尾会長）

- なかよし活動（１年～３年生）では縦割り活動が、準備の大変さの割にあまり効果を得にくかった。今年は１年と６年のペア活動でコンパクトな活動から縦割り活動を行っていくように変えた。（主幹教諭）
- 挨拶をする子が減ってきていて、「おはよう」には顔をあげないが、「いってらっしゃい」には顔を見て反応を返してくる。知らない人には挨拶をしない、と言う子もいる。他、同意見３件挨拶の意義を学校でも伝えていく。中高生は校門で挨拶していくので、成長過程での表れの可能性もある。日々の積み重ねで習得していくことなので、学校だけでは指導が難しい。（校長）

協議の結果、学校経営評価について、全員異議なく承認した。

（２）「教育課程」について（主幹教諭）

議長の指示により、主幹教諭から別紙資料に基づき「教育課程」について説明があった。

- 日課・委員会： 水曜日課の精査や低学年児童も参加しやすい委員会活動のあり方について検討中。
- 児童支援： １人で登校する子への対応や、新年度指導情報の引き継ぎを徹底できるよう協議。
- 給食： 準備時間短縮や食の細い子供への配慮など、より良い教育課程に向け改善を検討。

委員から以下の発言があった。

- 職員休み時間についての明記とは。（山田委員）
- 教職員は朝から放課後まで休憩時間が皆無の状態。（主幹教諭）

協議の結果、教育課程について現状を理解したこと全員意義なくこれを承認した。

（３）「学校支援活動」について（主幹教諭）

議長の指示により、主幹教諭から別紙資料を基に「学校支援活動」について説明があった。

- ボランティア状況： 現在 56 名が登録。交通安全、地域学習、家庭科支援、図書、読み聞かせ等で活動中。
- 今後の展開： ２学期以降、算数の学習支援（九九等）や、登下校時の見守り活動の強化を検討。地域全体で子供の成長を支える活動を推進する。

委員から以下の発言があった。

- 以前は地域の建築会社からもボランティアを受け入れていたが、コーディネーター不在になってから途切れてしまった。上島小学校や曳馬中学校では、その建築会社からボランティアの力を借りている。曳馬小学校も協力依頼を再開してはどうか。（川井委員）
- 今後検討していく。（主幹教諭）
- 旗振りとは別の登下校の見守りをお願いすることはできないか。（校長）
- 人数や時間など具体的な内容が分かれば、各自治会長や副会長にお願いされてはいかがでしょうか。（飯尾会長）
- 見守りの具体的内容、特に旗振りとの違いについて。（川井委員）他同意見３件。
- 散歩等しながら、旗振りと旗振りの間を移動しながら子供を点ではなく線で見守っていただきたい。特に朝の登校時間帯などは、教員の仕事に組み込むと時間外労働が発生するため、御協力をいただきたい。（校長）

協議の結果、「学校支援活動」について全員異議なくこれを承認した。

(4) 「職員の業務量管理・健康確保措置実施計画」について（教頭）

議長の指示により、教頭から別紙資料を基に「職員の業務量管理・健康確保措置実施計画」について説明があった。令和8年度～11年度の4年間で浜松市として学校の業務量の改善を図っていく。

- **教職員のウェルビーイング：** 心身の健康とやりがいを持って働くための「価値ある学校の創造」を目指す。
- **実態：** 浜松市全体でストレスリスクが上昇傾向。本校でも特定の時期や主任級への業務集中が見られ、残業時間が既定を大幅に超過している傾向。
- **目標：** 超過勤務時間の削減（月45時間以内）を目指し、学校以外の業務の仕分けや地域との連携による負担軽減を進める。

協議の結果、「教員の業務量管理・健康確保措置実施計画」について全員共通認識でき、異議無く承認した。

(5) コミュニティ・スクール研修会参加報告（飯尾会長）

地域と学校がパートナーとして相互に連携・協調し、子供たちの学びを支える仕組みの重要性を再確認した。また研修後、曳馬小学校は地域との連携がスムーズであると確信できた。

(6) 教職員と運営協議会委員と懇談

委員が各学年（ひかり・のぞみ、1～6年）のグループに分かれ、教室にて教職員と意見交換を行った。学年の様子や課題、地域で協力できる内容について直接対話する機会をもった。

- 2年生の先生と対話をしたが、子供が自尊心を持ち思いやりを育てていきたいということが伝わってきた。（飯尾会長）

(7) その他報告事項等

- 8月17日～21日夏休み学習支援講座を協働センターにて開催予定。（協働センター）
- 司会から、次回会議は、令和8年10月29日（木）午後2時00分から多目的ホールで開催する旨の報告があった。